

拓殖大学北海道短期大学創立50周年記念式典 理事長式辞

皆さん、おはようございます。

拓殖大学理事長の福田です。

本日は、本学北海道短期大学の創立50周年記念式典に、ご多用のところ、
辻 泰弘北海道副知事、山下 貴史深川市長をはじめ、多くの方々のご出席を
頂き、誠に有難うございます。

学校法人を代表し、厚く御礼申し上げます。

北海道短期大学は、昭和41年に「北海道農業の発展に貢献できる有為の人
材育成」を目的に創立され、爾来、^{じらい}「経済」や「保育」の分野を加え、今日で
は地域社会の維持発展に欠かせない存在となっていることは、私ども関係者
の誇りとするところであります。

これも一重に、これまで物心両面にわたって、ご支援・ご協力頂きました
深川市をはじめ、地元の皆様、卒業生の皆様、そして関係する全ての皆様
のお力添えの賜物と深く感謝申し上げます次第であります。

本日より北海道短期大学は新しい歴史の一ページを踏み出しました。

今日、日本の社会が抱えている課題は「グローバル化への対応」など多くあ
りますが、何と云っても一番深刻な問題は、少子高齢化による地域社会の抱
える諸問題、すなわち地域の再生と振興の問題であります。

とりわけここ北海道は、明治以来、常に日本のフロンテアとして発展して
来た地域でもあり、その分、今日的多くの課題を抱えているとも言えるでし
ょう。

拓殖大学は、今から116年前の明治33年、すなわち1900年に台湾協会学校と
して、海外の地、台湾の開発と+振興に貢献できる有為の人材の育成を目的
として設立されました。

創立20周年に制定されました校歌の三番に「膏雨^{こうう}ひとしく湿^{うるお}さば礧^{こうかく}確^{かく}やがて花咲かむ」という一節があります。これは「礧^{こうかく}確^{かく}すなわち石がごろごろしている荒地でも土地を耕し、膏雨^{こうう}、すなわち恵みの雨を施せば、やがて実りの花が咲くという本学建学の「フロンティア精神」を歌い上げたものあります。

4年後の2020年は二度目の東京オリンピックが開催され、本学もまた創立120周年を迎えます。

大学では今、グローバル化と地域振興に積極的に貢献できる「グローバル」な拓殖人材の育成をスローガンに掲げ、教育改革に取り組んでいるところがあります。

本日、北海道短期大学の創立50周年を新たなスタート地点として、大学と短期大学、そして地元深川市並びに北海道の皆さんが更なる連携を深め、「地域の創生」という今日、日本の社会が抱えている課題解決のフロントランナーとなるよう決意を新たにするとともに、これまでの皆様からのご支援とご協力に重ねて感謝申し上げます、式典のご挨拶とさせていただきます。

本日はご出席頂き、誠に有難うございました。

平成28年11月5日

学校法人 拓殖大学

理事長 福田 勝幸